

# 市民と市長の対話集会

## 「つながるまち、小郡」を語ろう！

平成29年7月24日（月）  
午後7時～午後8時30分  
三国校区公民館

### 意見交換議事録

**質問者A：** 今日に入りきれないほどたくさん出席者がいるが、やはりもう少し遠方から、今日来たいけど遠いから来られないという人がいるかもしれない。今後、市長の都合が許せば、各行政区で対話集会を開いていただけたら、ありがたい。各行政区回るのは大変だと思うので、市長お一人でも構わない。ぜひご検討いただけたらと思う。

また、予算の概略について、小郡市の広報でも確認できるが、詳細な中身はなかなかわかりにくい。市役所に行けば、予算書を見られるが、分厚いので読むのに時間がかかる。しかし、貸出もしていないということなので、校区公民館に何部か置いてもらえたら、市民の皆さんが見る機会ももう少しあるのではないかと思う。

さらに、昨年の熊本地震、先日の朝倉市での水害、やはりこのような災害がおこれば、道路が寸断されて、住民の救済に向かうのもなかなか難しくなる。また、ヘリコプターで孤立地区を救済するのが必要になるが、電線があるとなかなかヘリコプターも降りられなくなる。大規模な住宅等を作る場合には、前もって電柱の地中化を図ればいいのかと思う。そしてその指導を、市役所がすべきだと思う。

**加地市長：** まず、対話集会について、今回中学校区単位で大きくなってしまったが、せめて小学校区あるいはもう少し小さい形で回りたい。また、予算を作るときも皆さんとこういう会を開いて、「小郡市はこんなふうを考えています」ということを、決算を含め、予算についての会をできたらいいと思う。ぜひそういう時に、かみ砕いて皆さんと一緒に考えたい。また他にも重要課題が出てきたときや、何か大きなプロジェクトを置く時などに、市民の皆さんとご説明の会を持たせていただいて十分に意見交換をしたいと思っているので、その辺はご期待いただきたいと思う。

次に、予算書については、公民館に置くことも検討し、ぜひ置いたら皆さんに活用していただきたいと思う。

**肥山都市建設部長：** 電柱の地中化について、今都心部の方でかなり進んできている。さっき言われたように、災害時は、電線が切れたり停電したりということがないということ

で、おそらく久留米の方では大きな通りなどで地中化が進んできている状態。小郡でも、ぜひとも考えたいところだが、まだ道路整備や水路整備などに予算がかかるので、電柱の地中化については、頭に置いたところで考えて行きたい。

**加地市長：** 課題として頭に残しておきたい。

**質問者B：** 市長に立候補されて当選なさるまでと、それから実際に今、市長として市政の真ん中に入られたところで、全部変えるべきなのか、それともやはり変えていけない今までのものを伸ばしたいとお考えになっているものがあるのかどうかをお伺いしたい。ただそれを漠然と聞いても意味がないので、市長マニフェストの8つの柱の中の「新たな共働のまちづくり」に視点を置いてご意見を聞かせていただきたい。

先ほど問題点として2つ挙げられていたが、1も2も両方ともこれは市の方の考えまた市民に提案するときのやり方の拙さではなかったかと思う。我々まちづくり協議会の活動を実際にやっている人間としては、その点のところを、変えるべきものと、そして今までのものを伸ばすというところを、市長ご自身がどのように考えているか、その見解をお伺いしたい。

**加地市長：** 確かに市のやり方として、いろいろ皆さんにご理解いただくためには、無理をした部分もあったかと思っている。これは必要な無理もあったと思うが、ただやっぱりかけなければいけない時間であったりについては、これから変えなければいけないと思う。一番変えなければいけないのは、まちづくり協議会という存在の、今やっていらっしゃる皆さんの頑張っている努力などは、市民みんなにもっと広く知っていただく部分だと思う。

さらに、協議会に入ってくださいの方々の人材の育成も、やっていかなければならないと思う。つまり今、区長さんを始め、本当に一部の方々、いつもまちで頑張ってくださいている方々が、何とか市がお願いした課題について、集まってやっていただいている。次のステージに行くにはもっと広がりをもって、市民の皆さんが理解をして、皆さんがそこに参画していくという仕組みが必要だと思う。そのために私たちがやるべきことは、人材の育成だと思う。地域の課題を解決してくださいと投げかけるのは簡単なことだが、実際にはやはり、ちゃんと予算をしっかりと持って、問題を解決して、報告書を作って、決算もするということを含めると、ある程度専門性が必要となってくる。地域の中のそういう人材をどういう形で生み出していくかということ、我々がバックアップしなければいけないと思う。そうしたときに、新たな姿の共働のまちづくりが生まれてくる。本格的なそれぞれの地域ごとの課題を解決する強い組織というのが、それぞれの地域でできあがってくるのではないかと思う。

**質問者B：** 人材育成が一番重要だという考えを承ったので、ぜひそうなって欲しいと思うが、予算と時間がかかるということを、しっかり市民もそれから市の当局もお考えただいて実行いただければと思う。

**質問者C：** 三国中学校の「はばたく」というPTA新聞を配ってもらった。ここに三国中学校コミュニティ・スクールについて書いてある。三国中学校校区の学校運営協議会という組織でやっていきます、その中には学校、PTA、地域の三位一体となって頑張っていきたいと思いますということだが、これを見る限りでは、具体的にどう動かしていくのかというのが難しいかと思う。それで、今先生方は非常に雑事で大変なので、例えば算数のテストを採点するというのは、高齢者でもできる。だから、ゲストティーチャーみたいなものを組織をして、そういったところで退職した高齢者に活動してもらおう。それから子どもたちが通学しているこの道が気になるから、ちょっと見てくれないかなとか、そういった簡単なことをすっと言えるような形にしたら非常にいいのではないかと思う。小学校の先生が、地域の区長さんにそういったことをお願いすることが、さっとできるような形にしていいただいたら、すばらしいなと思う。

**加地市長：** 学校運営協議会は、3校に設置され、これから広げていくという形になっている。学校・PTA・地域が一体となることは大変難しいことで、少しずついろんなところで可能な部分から、皆さんが地域から学校に入ってくださいとか、できることはあるのではないかと思う。学校の環境づくりやお子さんの通学の問題、小学校だったら放課後のお子さんの見守りを含めたバックアップとか、いろんなことを逆に地域でなければできないこともあると思う。また学校も忙しいから、地域の力を借りたいというところも出てきていると思うので、これから接点を皆さんで考えていくことはとても大事なことと思う。頼もしいご発言で、そのような皆さんが力になってくださると、学校も本当にいろんな意味でもっと大事な力を教育に集中できるんじゃないかと思う。

**質問者D：** 公園に10mくらいの高い木があって、ある時、公園の木が切られたのはいいが、北と西だけぱっきり切って、南と東の方の木はそのまま放置してある。市政というのは、あまねく公平が基本であると思う。切っているところと切っていないところがあるのは、公平性に欠けるのではないか。

**加地市長：** 南と東に何か残す理由があったのかもしれませんが、そういったご要望は日常的に入ってきている。丁寧にお話しをうかがいながら、しっかりとお答えをするようにしている。

**肥山都市建設部長：** 場所がわからないのと、状況もわからないので、具体的な公園の樹

木については、市役所のまちづくり推進課が管理しているので、よかったら問い合わせただけであれば、ある程度お答えできると思う。色んな事情があり、例えば、予算がないので苦情があったとこだけ切ったなどで、残っている可能性もある。まずは市役所のまちづくり推進課にご連絡頂ければと思う。

**加地市長：** 少なくとも事情については、ご説明がすぐにできるのではないかと思います。

**質問者D：** あまねく公平という立場の点で、市長さんの意見をお伺いしたいのですが。

**加地市長：** この南と東を残すというのは、切ってはいけない何かがあるのかもしれないので、事情によって何をもって公平かどうかについても問われればその現場を見てお答えしたい。これが私が言う意味での公平というふうにお答えしたいと考えている。ぜひ、直接場所の指定を、別の機会にお知らせを。しっかりと対応させていただく。

**質問者E：** 市長は「小郡を変える」ということで立候補されて、当選された。その中に人事のこともあった。そこで今の現状、副市長がいないということに関して、どうお考えか。何か間違いがあった部分はないか。

**加地市長：** もちろん、危機管理上の問題からして、副市長を空席にしておくというのは、トップとして大変な責任を感じているところで、一日も早くこの状況からは抜け出したいと思っている。いろんな意味で、議会の方にご理解をいただく時間がなかったというふうに思っている。改めてしっかりと議会の方々に提案する期間を持たせていただいて、ご説明をしようと思っている。「変える」といっても、当然、半分の方は私に投票して、半分の方は私に投票していないという現状のため、いきなりいろんなことをご理解いただいて、全て私が当選したからご理解くださいというのは、それは難しいと思う。それをひとつひとつ、こういう場を通しながら、考え方を理解していただきながら、最終的には向かう方向にご理解いただけたらいいなと思っている。その時には小郡は見事な変貌をとげているということを私は約束するために、マニフェストを掲げたつもりである。このマニフェストを実行するために体制をとるのは当然のことで、そういう意味では副市長というのは私の片腕になる人物だから、その人については、慎重に皆さんにご理解いただいて、体制を早く整えたい。

**質問者F：** 七夕神社前の交差点から端間への道路はいつ開通するのか。

**肥山都市建設部長：** 県道久留米小郡線のことになるが、こちらについては、8月の終わりにくりに開通ということを県から聞いている。

**質問者G：** マニフェストを見る限りだと、小郡をどういうまちづくりをするか、方向性をはっきり見えないような感じがする。農と食の集客施設という構想があるということは、農業を活性化して、農業のまちにするのか、ここはちょうど住宅地、いわゆるベッドタウンだから、そういう風な計画を主にしていくのか、それとも企業や会社を呼んでやっていこうと思っているのか。そこで最終的に小郡市の歳入がしっかりしてこない、いろんな皆さんの要望に応えることはできないと思う。そこらへんはどういうふうに考えているのか。

**加地市長：** 小郡の向かうべき経済的な方向性というか、政策ですが、企業誘致について言えば、この地は物流的に大変いい地域のためいろんな会社が入ってきているし、きちんと整備すれば、進出企業引く手あまたというふうに考えている。そういう意味で、交通の拠点であることがひとつ生かれます。

もう一つの意味では、もちろん住宅地としても交通の拠点ですから、引き続きベッドタウンとしての意味はある。

もう一つの意味は、農業も実は、この交通の要衝というのはとても活かせる地域だと思っている。小郡はどっちかという優良農地がたくさんあって、これが工業用に転用できないから、なんとなく経済的に遅れてしまっていると思われる方も多し、鳥栖の高速道路をみると、鳥栖や基山の方にはいっぱい工業団地という会社が並んでいるけれど、一方こっち側をみると小郡は全然進んでいないということで、なんか遅れていると思われる方もいると思うが、逆に私は、これからが農業のチャンスではないかと思うので、食であり農業というのを打ち出していきたい。これだけの優良農地が平地にあって、さらに高速道路へのアクセスもいいので、都市型の農業、いろんないいものをすぐに消費地へ送ることができるチャンスです。いろんな産業から、今農業に乗り込んでいきたいというところもあるから、集団的な営農も意欲的にやっていらっしゃるかたも多くできています。そういうことを後押ししながら、小郡も特徴としてもいい景観を残しながら、産業として雇用も生み出す、収益も生み出す、そう意味で農業が一つのコンテンツになるかと思う。

そこでやはり道の駅のような、販売をするような一つの拠点があると、そこにいろんなものを持って行って、売り出すこととそれによって小郡を外に向かってアピールすることをうまく関連づけながら、「食と農のフードバレー」といういいかたを私はするが、小郡は「フードバレー」、食とか農業の中心のまちというかたちにしたい。逆に企業誘致も物流だけじゃなく、食品関係とかが入ってくると雇用が増える。加工やいろんな食べ物をつくるということを、そういうことにうまく結びつけながら、新しい動きを生み出していきたい。

**質問者H：** 体育館建設やスマートインターについてお伺いしたい。これはもう決まったことなのか。私たちが知らないうちに、だんだん話は進んでいくみたい。そこで、お聞きしたいのは、小郡の野球場の維持管理費というのはいくらかかっているのか、収入はいくら入っているのかをお伺いしたい。

**加地市長：** まず、スマートインターチェンジについては、先週の末に、調査費がついた。調査費というのは、これから本格的にやるということを前提に、味坂の地域にスマートインターチェンジをつくる方向で検討していきましようということで、国が乗り出したということ。まだ、5年先6年先になるかわかりませんが、一つ私たちにはスタンスがある。それは、なるべく地元はお金を使わないということ。これが大事なことだ。高速道路ができる本体のところは、国の予算で作る。そこに結びつく道路は、基本的には県が出してくれたりするのだが、そういうところをなるべく県の予算でやってもらい、小郡市としては、持ち出しがないようにお願いしますということを行っている。持ち出しが結構できてしまうと、話が違うぞということになるので、県にも国にもお願いしているところで、そういう中で話をすすめさせていただいている。

体育館建設については、今基本計画ができていますが、これからいつのタイミングでどうするかということは、もう一回考えなければいけない。小郡の他の周辺地域も含めて、どういう体育館があるべきなのか、それがどれくらいの費用をかけてやるべきなのかなど、そういうことを総合的に考えていく。体育館については、今のまま放っておくというのは考えられない。武道場で物資を集めさせて頂いたが、天井から水がぼとぼと落ちてきたりとか、体育館自体もトイレもひどい。あのままでいくと、小郡のスポーツ文化にとってはちょっと恥ずかしいと考えるので、それについては対応しなければいけない。時期的な問題を考えながら、皆さんと一緒に話し合っていきたい。

**山下教育部長：** 野球場・陸上競技場・テニスコート含めて予算を組んでいるが、運動公園の管理として、人件費を除いて、4,400万円程度。それに対し、収入は体育施設使用料ということで、約1,900万円の収入があがっている。

**質問者H：** ちょっと見させていただいたのだが、テニスコートは700万円くらいあがっているが、野球場は200万円くらいしかあがっていないようだが。

**山下教育部長：** 予算でいうと、野球場は270万円、テニスコート700万円になる。

**質問者H：** そういう、経費がものすごくかかっているが、収入がそれだけしかあがっていないということが問題だと思う。

**加地市長：** 陸上競技場は今度芝を張替えるが、二種の公認記録を作るために、芝を維持するためには、9,000 万くらいをかけて芝の張替をしなければいけない。これを、そのままいいものを持っていて、これからどう稼げる仕組みを作っていくかが課題になっていくと思う。放置しておいたら、お金が出ていだけになってしまうので、今野球場でも広告だしたりしているが、そういう工夫を重ねていきたい。今までの行政の発想だと、球場はただ維持管理して使用料赤字になるのは当たり前、というのを少しずつ変えていきたい。球場自体に人が集まるのだから、その集まる人というのを利用して、何かお金がかせげるようなことができないかという発想をこれからもっていく、これが公民連携室なんかの役割になっていくと思う。

**質問者 I：** 今日はどっちかというと総論、基本的なことを述べられて、非常にわかりやすかったが、先ほど協働のまちづくりからも質問がでていたが、ある程度の各論も必要じゃないかと思う。総論は賛成だが、各論はそう簡単にはいかない。例えば、まちづくりではなく、行政改革とか財政改革これについても、民間の優秀なメンバーが必ずいる。経理に強い人、あるいはカイゼンが強い人、あるいは品質管理が強い人など、いろんな方がこの市にはいる。その市民の方と市役所の若手のしっかりした人がチームを作って、少なくとも月に4回くらい、それを5か月間くらい、検討してやっていけば、ある程度の青写真ができるのではないかと思う。先ほどの農業の話も出ているが、そういったものも市民と市役所の合同、さらにはこの近辺には大学も多いから、官民に学を入れるという、産官学で三者の力を合わせたうえで、農業に関しても工業に関してもやられたらいいのではないかと提案する。

**加地市長：** まさに私の「つながる」というのはそういうところの意味を含めている。いろんな方々とつながる、特に地元にはいろんな優秀な方がいるので、そういう方々の能力を使わせてもらい、私たちだけだと思いつかないような発想、あるいは厳しい見方をとり入れて、しっかりとやっていきたいと思う。

**質問者 J：** 私は横隈古墳の土砂災害警戒区域に指定されている場所に住んでいる、というのを最近知った。この地区は土砂災害警戒区域ですから避難してくださいという広報がまわっていた。知ったのはそのとき。いつの間にか県の方が、私どもの住居何軒かを土砂災害警戒区域に指定している。これは古墳の問題がある。古墳を残すのか、住民の生活を守ってくれるのか。ある人によれば、その県の指定があつて固定資産税も下がっているということだ。市としては、市民の安全を守ってくれるのか、土砂災害警戒区域となっていれば、土砂災害警戒区域でなくなるような対策をとっていただきたい。

**加地市長：** 当然皆さんのお住まいの安全を守るというのは、私たちの責任なので、それ

については一緒に考えさせていただきたい。また、一方で、文化財を守っていくというのも市の責務でありますので、どうしたら、一緒に共存できるかということと一緒に考える機会を持たせてほしい。

**質問者K：** 防災行政無線だが、私の家では音が聞こえない。2、3回ほど電話し、防災無線は皆さんにわかるように設備がしてあるのではないかと話した。どういう考えであの設備ができたのかということ、職員に聞いたら返事ができなかった。実際に来て実際の放送を聞いてくださいとお願いした。おそらく聞こえない人が、普通の状態でも多いと思うが、雨が降ったり風が吹いていたら、まず意味をなしていないのではないと思う。防災無線というのは、皆さんに連絡するためにあると思う。設備は作っても、市の職員が確認していないと思う。私は2回か3回電話をしたが、それから返事がないので、皆さんにわかるように設備をするか、また別の方法で確実に市民に連絡できるようにお願いします。

**大津総務部長：** 防災無線を付けるときには、設計をしている。他の音源等のハウリングが考えられるので、そういったものを勘案しながら、スピーカーの向きを調整し、最大限有効に聞こえるように設計をした。併せて、当然窓を閉め切っていたり、大雨のときや外がうるさい場合にはなかなか聞こえづらいというのは当然のことだと思う。そうした場合は、例えばテレビやラジオ、今は携帯の防災情報もあるので、多角的に色々な情報を集めていただいて、身の安全を図って頂ければと考えている。

**加地市長：** 重要なご指摘だと思うので、どういう状況になっているかについては、調べさせてほしい。他にも無線の放送速度が速すぎて聞こえないとか、豪雨災害のときに、私も市役所につめていたので、いろんな苦情を聞いた。これについては、改善できるところについてはしっかり改善していきたいと思うので、今日は貴重なご意見と受け止めさせていただきたい。